

# 業務部速報

No. 2

発行 14. 6. 20

JR東労組 業務部

## 申1号 第30回定期大会発言に基づく申し入れを行う!

JR東労組は、6月8日～10日仙台地本の万全な準備体制のもと第30回定期大会を開催しました。今定期大会では、「京浜東北・根岸線及び横浜線の乗務員基地再編成」に対する施策の進め方や会社の姿勢に対する厳しい意見が出されました。労使協議を蔑ろにし、施策が実施されることになれば、組合員の利益を守ることはできません。労使共同宣言を遵守し、正常な労使関係を確立するため、全12地本が一致団結して組合員の利益を守り抜くことを確認しました。鉄道事業者にとって「安全」が最優先課題であることは言うまでもありません。現場第一線で安全を守りぬくためには、日々の業務の中で不安を感じることなく、組合員一人ひとりが働きがいを実感できる職場環境であることと考えます。

したがって、職場で発生している問題の解決に向け、申1号を申し入れ議論していきます。



### □申し入れ項目（全10項目）

1. 各系統における施策実施や各種説明、通達事項等については前広に労使間で議論をおこなうこと。
2. 設備21以降に発生し続ける重大事故に対する原因究明をおこない再発防止対策を確立すること。また、設備・電気部門におけるグループ会社との業務体制のあり方について見直しをおこなうこと。
3. 常磐線 広野～竜田駅間を6月1日に運転再開した理由を明らかにすること。また、福島第一原発事故が未だ終息していない中で、社員の健康や運行に関して安全と判断した根拠を明らかにすること。
4. 放射能による健康被害等に不安を抱える女性社員ならびに若手社員については、本人の意見を尊重し業務運営をおこなうこと。
5. 駅や鉄道沿線に設置しているモニタリングポストを増設し、測定した空間線量を乗務員休憩室及び当直で常時確認できるモニター等を設置すること。また、測定した空間線量に異常値が示された場合は、機器の故障の有無に係わらず運転中止にするとともに、避難指示解除準備区域に在線する列車を直ちに区域外に退避させること。
6. 被災線区の鉄道による復旧に向けた進捗状況を明らかにすること。
7. 災害に強い鉄道を実現するために、災害発生時を想定した現地訓練を実施すること。また、現地訓練は各現業機関の指導担当がおこなうこと。
8. 鉄道車両製造をはじめとする海外事業の将来展望を明らかにすること。
9. 仕事と育児・介護を両立するために、ワークライフバランスの観点から育児・介護勤務Aの作業ダイヤ及び乗務員行路を次期ダイヤ改正までに整備すること。また、育児・介護勤務A・Bを取得できる職場環境を確立すること。
10. グループ会社に対する業務委託費を増額し、安全やサービスレベルを向上できる労働条件・労働環境をJR本体が責任を持って確立すること。

## 職場の声を基に要求を実現しよう!!